

令和5年度 郡山ヘアメイクカレッジ
学校関係者評価報告書
学校関係者評価報告責任者: 学校長 佐藤知子

1. 学校関係者評価委員

- ①菅野 功一 株式会社菅野二郎商店 代表取締役
②鈴木 扶美 スタジオ・シェルパ代表 卒業生

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和5年 8月 7日 本校会議室
第2回委員会 令和6年 3月 25日 本校会議室

3. 学校関係者評価委員会報告

①学校の教育目標

「専門教育」と「社会的応用力の育成」に加え、これからの時代に必要不可欠であるグローバルスタンダードな観点から「国際化教育」「情報化教育」を深め、幅広い視野と確かな応用力を備えた創造性豊かな人材育成を目標とする。

- 確かな専門技能と応用力を身につけ、美容界で活躍できる人材を育成する。
- 自ら挑戦し、課題を発見し、これを解決する能力を持ったリーダー(けん引者)となる人材を育成する。
- 社会貢献・地域貢献の精神を持ち、幅広い社会性を備えた人材を育成する。

②本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

【令和5年度に定めた課題事項】

- サービス業の基本であるコミュニケーション能力(言葉遣い・マナー・礼儀・返事・あいさつ)を高めさせる。
- 学力、技術面における個人差を少しでも無くし全体的なレベルアップ及び意欲的に資格取得をめざす意識づけをする。
- 専門技能と応用力に加え積極性を身に付け、美容業界で望む人材を育成する。
- 教員に対する指導力向上及び資格取得のための研修参加などレベルアップをはかることにより意識と自信を高め教育に活かすことが出来るようにする。

(1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	・学校の理念・目的・育成人材は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

①課題

- ・教育、指導においても、事務的作業においてもそうですが、一気に加速したIT化への対応力(情報化教育)が乏しいと感じます。
- ・学生達に便覧や学則に沿った行動、生活をしてもらう。
- ・指導していく上で、サロン業界の状況が分かりかねる部分があるので、我々が理解して伝えていかなければと思う。
- ・学生があいさつができる学生とできない学生がいる。
- ・学校の教育理念等、保護者への周知方法。

②今後の改善方策

- ・特に就活においてなど、今までの常識とは違うやり方でのサロン様との連絡手段など、どうすべきかを検討して指導して行く必要があると思います。
- ・学校生活とプライベート(アルバイト等)の両立ができてない学生の指導とヒアリング。
- ・サロンの状況や今の流行などを把握する。
- ・授業やホームルームのあいさつからきちんとやっていくよう指導する。
- ・入学前の招集日や体験入学等でことばに出していく。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(2)学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	④	3	2	1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

①課題

- ・インボイス制度が始まったので今までの書類の作成などを理解しなければならない。
- ・今の学生に合わせた授業内容になっているか、職員それぞれの仕事の配分が適切だろうか、検討が必要だと思います。

②今後の改善方策

- ・インボイス制度の仕組みを早く理解したうえで、作成も慣れていかなければならない。
- ・特に今の学生が求める授業として、選択コースの内容の見直しが必要ではないかと思います。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(3) 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	④	3	2	1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修が行われているか	4	③	2	1

①課題

- ・職員の研修への参加。
- ・どの教員が授業をしても、基本的な指導、説明等、全員が同じ事を教えられるようにする。
- ・サロンの技術やサロンワークなど学校では学べない知識や技術を学生が学べればよいと思う。
- ・こちらの注意、忠告を聞かない学生の厳罰化。
- ・業界のニーズを踏まえるためにも、今のサロンが必要とする基礎的知識、技術を授業にも取り入れるべきだと思います。

②今後の改善方策

- ・皆で取り組めるものを年1回実施検討(学校での開催)
- ・各専門分野の担当者へ学校に届く研修案内を知らせる、配布。
- ・教員同士の定期的な技術指導の打ち合わせや密な話し合いが必要だと思う。
- ・少しずつ取り入れているがもっとたくさんサロンの人とふれ合える時間をつくれればと思う。
- ・処罰を少し重くする。
- ・現役の美容師の先生方へ外来講師を依頼することを実施する予定ですので、実際にどのような内容にして行くかが、今後大切になると思います。

③特記事項

- ・サロンとの関わりを増やす。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(4) 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	・就職率の向上が図られているか	4	③	2
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

①課題

- ・入学前の意志確認の強化。事前情報の明確性(心の病気、発達障害、躁うつなど)
- ・資格取得や就職活動への意欲をもたせたいです。
- ・選択コースでの資格取得で検定に落ちてしまう学生がいる。
- ・就職活動を遅く始めたり、後回しにしすぎてしまっている学生が見られる。

②今後の改善方策

- ・出願時に受験生の意志や心配事、悩んでいることの再確認。
- ・卒業生の活躍を知らせる等、美容師の魅力を入学後にも伝え続けていくといいと思います。
- ・興味ある、ないでも関わってくるが、いかに合格率を上げる為に取り組む力をつけないといけない。
- ・就職活動の動きが見られなかったりする学生に対して面談などをしていく。

③特記事項

- ・指導の改善、興味を持たせるなど。
- ・卒業生の講話の開催を継続していく。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(5) 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

①課題

- ・精神面が少し弱い学生や休みが多い学生が増えてきている。
- ・用具を紛失する学生の増加を防ぐ。
- ・実技や学科での生徒の差があるので、苦手な課目の対応の仕方。

②今後の改善方策

- ・学生との面談や保護者との連携もしていき協力していただけるような対応をしていく。
- ・物の大切さの周知、用具一時預かりなど。
- ・今までも取り組んではいるが、得意、不得意を早い段階で見つけて、早めに改善していく。

③特記事項

- ・指導の工夫、進捗別での指導など。
- ・(連携をとる手段の1つとして)急ぎの通知事項をラインで伝える。(保護者によるライン登録)
- ・奨学金や給付金等、様々な学生支援を行えていると思います。またその制度の手続き支援なども手厚く行えていると思います。

④学校関係者評価委員コメント

- ・コミュニケーションは大事であり、挨拶ができるとうい。

(6)教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④	3	2
・学内外の実習施設・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①課題

- ・空調等がやはり不慣れた時がある。(場所によって)
- ・夏場の授業時の室内の温度管理。
- ・いま現在としては海外研修の必要性はあまり感じないです。その分、実際に行くのではなく、海外の情報を与えられたらと思います。

②今後の改善方策

- ・タイマーなどで早めの対策など。

③特記事項

- ・今の状況では物価高騰などもあり、電気代も高騰しているので厳しいかもしれない。
- ・防災訓練は通信生にも実施。全体として年2回は行う。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

- ・オープンキャンパス、校内見学、イベント以外の活動。
- ・毎年安定した学生の受け入れをしていく。
- ・SNSの活用も現在行われているが、生徒側からの投稿もありなのかなと思う。

②今後の改善方策

- ・実際の授業風景の公開(HP、SNS以外)ガイダンスの手伝い。
- ・体験入学、ガイダンス、SNS等を利用し、魅力を引き続き伝えていく。
- ・生徒の日常ではないが、生徒側からの投稿を載せる場合は自由になりすぎないようにする必要がある。
- ・学納金に関しては他校のカリキュラム内容等、情報収集し比較していくことが必要。

③特記事項

- ・一度チェックが必要になる。
- ・インスタグラム、ホームページの活用。

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(8)財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2
・予算・収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①課題

- ・特になし

②今後の改善方策

- ・特になし

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

①課題

・特になし

②今後の改善方策

・特になし

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2
・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

①課題

・学生が簡単に参加できるボランティアの実施。

・社会情勢を鑑みながら地域との連携やボランティア活動などを取り入れて行くべきだと思います。

・コロナ禍でボランティア活動等が実行されていなかったもので少しずつ活動できればと思う。

コミュニケーション育成も。

・コロナ等もありここ数年ボランティア活動ができていない。

②今後の改善方策

・全員が参加できるボランティア活動を授業に導入。

・ボランティア活動の参加を増やす。

・授業中の実施が無理でもボランティアの依頼があった際は、学生に発信していく。

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員コメント

・特になし